

自主防災組織について

☆自主防災組織とは？

黒潮町では、すべての地区で自主防災組織が設立されています。

「自主防災組織」というと、何か特別大変なことや難しいことをしなければいけないように感じる方もいるかもしれません。

皆さんの日常生活をちよつと振り返ってみてください。それぞれがご家庭で暮らしながら、一方、地域で共通することは町内会や自治会などといった組織を通じて活動をしていませんか？

こうした地域に根差した組織の活動の中に「防災」という観点も取り入れることが、まさに自主防災組織活動そのものなのです。

地域の皆さんが集まって、定期的に防災に関する学習会や訓練の実施、災害時に特別な援護を要する方がどこに住んでいるか把握しておくなど、地域ぐるみで災害に備え、地域の防災力を高めていきましよう。

☆自主防災組織はなぜ必要？

阪神・淡路大震災では、生き埋めや建築物などに閉じ込められた人のうち、生存して救出された約95パーセントの方は、自力または家族や隣人などに助けられました（下記グラフ参照）。

また死者の大半は、地震が発生した当日（1月17日）か翌日の間に発生し、生存者を救出できたのは、大部分が3日目まででした。

このような傾向は他の大地震でもみられ、地震発生から最初の3日間は、人命を救助するために非常に重要な「黄金の72時間」と呼ばれています。

人命救助に最も大切な地震発生後の72時間を中心に、県、市町村、防災関係機関などでは、人命を救う応急活動を最優先に行います。

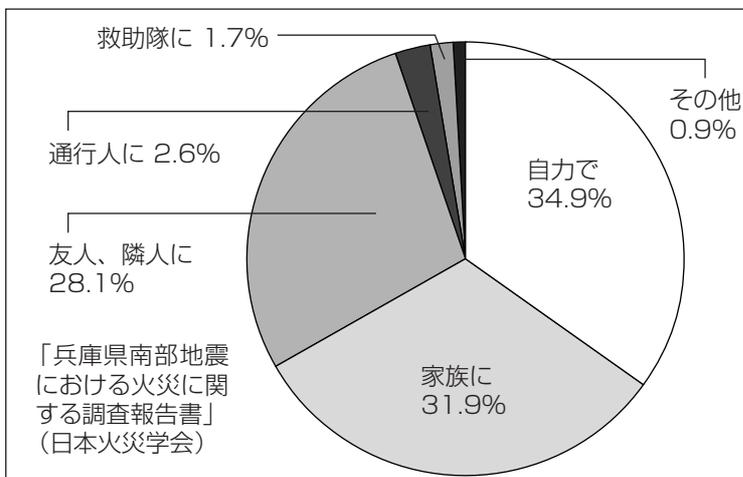
しかし、次の南海地震では、高知県の広い範囲で甚大な被害が発生し、公的な救助活動が被災地全体に行き渡らないことも想定されます。そのため地域で助け合っただけを行うことが重要となります。

また自主防災組織は、避難生活が始まった場合でもコミュニティ

を保ちながら助け合っただけで生活をしていく基礎になります。

以上のように、黒潮町では、南海地震を中心とした大災害のほか、風水害や土砂災害など、さまざまな災害が起こる可能性があります。いつ起こるかかわからない災害に備えて、自主防災組織の活動に皆さんで参加しましょう。

■ 阪神・淡路大震災における住民による救助・救護活動



街路灯が寄贈されました

四国電力株式会社より街路灯などが寄贈され、平成24年11月6日に黒潮町役場で寄贈式が行われました。

寄贈数は海抜表示板が1カ所、街路灯が7カ所、計8カ所です。いずれの場所も夜間などは暗く危険な場所でしたが、今回の寄贈によって地域安全の向上が図られました。

○海抜表示板

坂折

○街路灯

蛭川、王迎、小川、大屋式、大井川、上田の口（2カ所）



幡多中央地区 消防連合会総合訓練

11月18日、四万十市西土佐の西土佐ふれあいホールにて、幡多中央地区消防連合会総合訓練が実施されました。

この訓練は、黒潮町と四万十市の消防団全員が参加して行うもので(待機分団は除く)、訓練では「ポンプ車の部」と「小型ポンプの部」に分かれて実践型放水訓練を行いました。いずれの部も水利からホースを2本延ばして放水し、火点を想定した目標を倒すまでのタイムを競うものです。

黒潮町消防団からはポンプ車の部に3分団、「小型ポンプの部」に9分団が参加し、ポンプ車の部では田野浦分団が、小型ポンプの部では蜷川分団が、それぞれ優勝しました。なお、最終結果は下記のとおりです。

黒潮町消防団全体の平均タイムは約48秒。昨年の平均タイムを上回る素晴らしい結果は、日頃の訓練の成果、また団員の皆さんとそれを支える方々の力の賜です。普段からいざという時に備えて

訓練を行っている消防団員の皆さん。地域にとって、そして黒潮町にとっても頼もしい存在です。



実践型放水訓練の様子



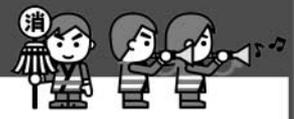
ポンプ車の部で優勝した田野浦分団

平成24年度幡多中央消防組合連合会 総合訓練 結果



ポンプ車の部

優勝 田野浦分団(黒潮町)
準優勝 大宮分団(四万十市)
第3位 下田分団(四万十市)



小型ポンプの部

優勝 蜷川分団(黒潮町)
準優勝 伊田分団(黒潮町)
第3位 鞭分団(黒潮町)

黒潮町民大学第4講座 (防災講座)を行いました

11月22日、大方あかつき館において、町民大学第4講座として、

「2011年東北地方太平洋沖地震津波の教訓と将来の南海トラフ巨大地震への備え」という演題で、防災講座が行われました。
講師には、高知県内で津波の痕跡調査を実施し、黒潮町では入野松原の津波への耐力などを調査して減災効果を研究されている、東北大学・災害科学国際研究所の今井健太郎氏をお迎えしました。今井さんからは地震や津波のメカニズムや科学的な見地から、多くのお話をいただき、黒潮町が目指す南海地震の防災・減災対策に向けて多くのことを学ぶ機会となりました。

